



# THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST 長野西ロータリークラブ



例会 毎週金曜日 12:30～13:30 ホテル国際 21  
事務局 〒380-0838 長野市県町 576 ホテル国際 21 内  
☎026(235)2800 FAX026(235)0016  
e-mail:nwrc1987y@sweet.ocn.ne.jp

会長／布施慶典 幹事／村田秀雄 クラブ会報委員長／藤澤克彦  
SAA／野村泰久 副SAA／西沢 徹

第1486回例会 2018年（平成30年）8月24日（金）

## インスピレーションになろう BE THE INSPIRATION

### 会長挨拶 布施慶典会長

各地で最高気温の更新が相次ぎ、猛暑が続いています。気象庁は、「命にかかわる危険な暑さ」『災害と認識している』と表現し、熱中症への警戒を厳重に呼びかけていました。夏でも、命に危険のある時代となりました。

今年の8月も、終戦記念日や、広島・長崎の原爆の日等、戦争に関わる話題がたくさんありました。戦争を二度と起こさぬように、平和について考える会等、将来に向けてのメッセージはありますが、過去（戦争）の事実は語られていない。最近でこそ、戦争の事実を後世に残そうという戦争体験者が語り部として活動していますが、それはボランティアです。もっともっと昔を知らなければと思います。特に、引揚者のことです。今年の3月にNHKテレビで、『どこにもない国』が放映されました。終戦後に国家から見捨てられ、旧満州に取り残された150万人を超える日本人の帰国に奔走する民間人の「丸山邦雄さん（飯山市出身）の実話をドラマ化」したものです。日本政府は、当初連合軍の占領下であり、外交権がないことを理由に、積極的に動かなかった。民間人が満州から邦人の引き揚げを求める世論を喚起し、政府・GHQに働きかけ動かした。1976年4月、GHQから引揚船の派遣が始まり、1948年までに引揚を果たした。何故、軍や官僚ら政府関係者は、民間人を置き去りにしたのか。民間人の中に、このように頑張った人たちいたが、各地にたくさんいたのだろうと考えさせられました。

終戦時、日本の人口は、7,199万人です。本土以外に居住していた人（引揚者）は、639万人。地域別に見ると、満州が160万人、支那（中国）が152万人、ソ連占領（樺太・千島・北朝鮮）が72万人、西アジアが74万人、南朝鮮が67万人、台湾が49万人等です。因みに、復員者は、370万人で、満州・朝鮮が100万人、中国が100万人、南方が160万人です。作家の半藤一利さんは、日本は歴史に対して、責任を持たない民族。とっています。戦後の秘話は、まだまだありそうです。過去のことを過去のことにして、葬らず、日本の歴史を（終戦前後）をもっと、明らかにすべきと思います。

### 8月のお祝い事 おめでとうございます

<結婚記念会員> 近藤哲哉さん 竹村利之さん

<夫人誕生記念>

池田加代子さん 粕尾京子さん 北川原久美子さん

相馬明子さん 高井惇子さん 轟ゆり子さん

<会員誕生記念> 小出昭雄さん 高橋英司さん

### R財団の寄付について 清水R財団委員長

今回川橋さんから寄付をして頂き累計額1万ドルのメジャードナーとなりました。ご協力有難うございます。認証品は後日贈られて参ります。

8/31 本日のプログラム

ゲスト卓話 高田紫帆さん  
「日本画を楽しむ」

米山記念奨学会より感謝状 布施慶典会長へ

米山記念奨学会へ10万円寄付され第一回米山功  
労者となりました。



R 財団より認証品 1,000 ドル寄付の4名の方へ

- 1 回目 (PHF) : 布施慶典さん・村田秀雄さん  
→ 認証状と襟ピン
- 5 回目 : 清水光朗さん→襟ピン (サファイア4粒)
- 8 回目 : 野村泰久さん→襟ピン (ルビー2粒)



幹事報告 村田秀雄幹事

- ・次週8月31日第2回クラブ協議会11:45~
- ・明日25日、地区米山セミナーとロータリー財団  
セミナー開催。

出席・ニコBOX報告 瀧澤 聡例会運営副委員長

8/24 (会員48名) 出席26名前々回修正出席率89.13%

- ・太田裕志さん☆この度、総合保険代理店を開業  
しました。保険のご用命などございましたらよ  
ろしくお願い致します。
- ・竹内喜宜さん☆お久しぶりです。

・合計 6,500円 ・スヌーピー 7,687円  
・累計 132,862円

会社変更について 太田裕志さん

社名：(株)Jリスクマネージメント長野支社  
役職：長野支社長  
住所：〒380-0936長野市岡田町166-1  
森ビル新館2階  
電話：026-266-0678  
FAX：026-266-0679



例会案内

9月7日 ゲスト卓話 西村 岳生さん  
「子・育つサッカー」

会員卓話 中野欣哉さん

「落語のはなし」



5月の誕生記念卓話?!からまだ3ヶ月足らず、本年度プログラム委員会に配属になり、委員長の「天の声」でまたもや登場となつてしまいました。今日は「落語」を楽しんでいただきたいと思います。浅い知識ですがお話をさせていただきます。

そもそも落語の起源は戦国武将が見聞を広め無聊を慰めるため学者や茶人などを「御伽衆(おとぎしゅう)」として抱えていたことに始まるそうです。時代が移り江戸時代に「辻噺(つじばなし)」で人気をとる者が出てきて不特定多数を聴衆とし、代価を得て演じておりこれらが落語(家)の祖と言うのがどうも通説らしいです。近代になって大衆芸能の一端を担うようになり、古典から新作はもとより現状批判の風刺噺まで登場するようになったようです。落語は「滑稽な噺」が基本ですが細かく分類すると「与太郎噺」「廓噺」「人情噺」などなどたくさん分類になります。

落語家に関しては皆さんも十分ご存知なので触れませんがひとつだけ、関東の落語は前座・二つ目・真打と上がっていきますが関西はありません。ある意味関西は実力勝負的な要素が大きいのでしょうか。いずれにしても落語は面白いですし、同じ噺でも演じる落語家によって感じ方がまるっきり違います。内容は同じなのですが演者の話し方や仕草、表情などでガラッと変わってしまう噺もたくさんあります。噺の背景を想像しながら聞く落語は奥深く時には色々なことに興味を持たせてくれます。

私が興味を持って調べてみたことをひとつだけ紹介します。上方落語の「青菜」と言う噺に出てくる大店の主人とお抱えの植木屋さんの会話に「柳陰」と言う当時夏場に好まれた酒が出てきます。どうも気になり製法を調べ作ってみました、甘い酒でとてもたくさん飲めるものではありません。しかし当時の様子にちょっと触れることができる楽しいことでした。そんなこんな「落語」の楽しみ方はたくさんあります。近年の落語ブーム



にのってどうぞ皆さんが楽しんでいただけるきっかけになりましたら幸いです。

それではお後がよろしいようで

.....